【保護者向け】

聖ラファエル校との交流事業について

編集・発行：白石市国際交流支援協議会事務局
（白石市まちづくり推進課内）

令和７年３月　発行

目　次

① 白石市の国際交流事業について ・・・・・・・・・・・・・・・・3

② オーストラリア・カウラについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・3

③ 交流校について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

④ 聖ラファエル校との交流について・・・・・・・・・・・・・・・・4

⑤ オーストラリアへの白石市中学生派遣事業について・・・4

⑥ 令和６年度派遣事業に参加した生徒の感想・・・・・・・・・7

⑦ 聖ラファエル校受入事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・8

⑧ 令和６年度受入事業に参加した保護者の感想・・・・・・10

⑨ 令和６年度受入事業に参加した生徒の感想・・・・・・・・14

⑩ よくある質問・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

事業参加をご検討中の保護者の皆さまへ

この資料は、聖ラファエル校との交流事業参加をご検討されている保護者の方向けに作成したものです。

応募したいと思っていても、「交流事業がどんなものか分からない」「どんなことをするのか不安」といった事情で、申し込みをするか悩んでいる方が、この資料を読んで「申し込んでみよう！」と一歩踏み出す勇気を与えられる資料になれば、という思いを込めて作成しました。

言葉や文化、生活習慣が違う外国人を受け入れることは決して簡単なことではなく、保護者の方が一番不安を感じられるものと承知しております。

国際交流は、参加されたお子様のみならず、保護者の方、ご兄弟、地域住民など様々な方にとって、これまで知らなかった文化の多様性について外国人を介して知る機会となります。また、相手の文化を尊重し理解することによって、他者との違いに対する寛容さを身につけることができ、このような小さな交流は、子どもの将来の大きな礎となります。

地域社会全体で目標を共有し、未来を担う子どもたちの成長を支える、この国際交流をぜひ、ご家族で体験していただければ幸いです。

1　白石市の国際交流事業について

1994年(平成６年)から国際姉妹都市として交流をしてきた「オーストラリア・ハーストビル市」が2016年(平成28年)に隣接市と合併し、青少年の相互交流が継続できない状況となりました。

そこで、当時、国際交流コーディネーターとして本市の国際交流に尽力いただいていた方より、オーストラリア・カウラにある私立学校「聖ラファエル・カトリック・スクール・カウラ」を紹介いただき、2019年（令和元年）より、新たに青少年の相互交流が始まりました。

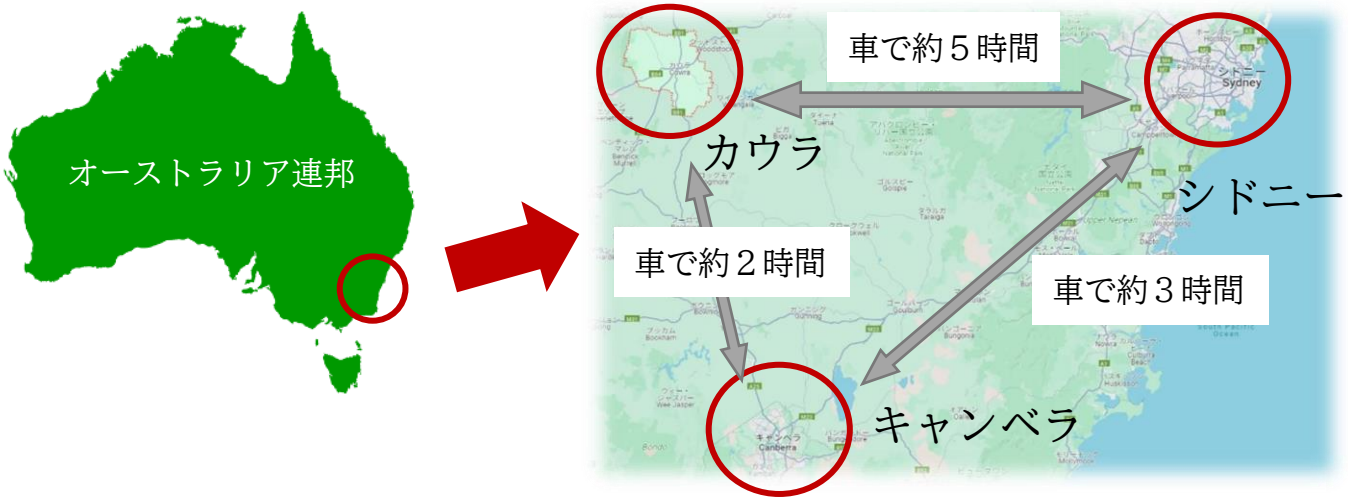
2　オーストラリア・カウラについて

●位置　・ニューサウスウェールズ州
・シドニーから西へ約320kmに位置し、車で約５時間
・首都キャンベラからは、車で約２時間

●人口　・約１万人(※移民は人口のほんのわずか)

●季節　・南半球にあるため、日本の真逆（※中学生が訪問する時期は冬）

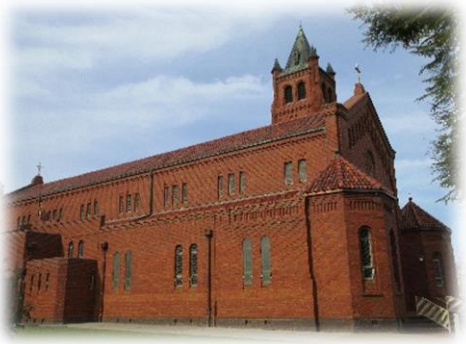
●時差　・日本より１時間早い（※夏時間(サマータイム)期間は、日本より２時間早い）



3　交流校について

聖ラファエル校はカトリック教の私立学校で、幼稚園児から高校３年生までが通う完全一貫校です。在校生徒数は、初等部(幼稚園～小学校)で300名程度、中・高等部で200名程度となっています。

学校の隣には礼拝堂があり、１年を通して特別な日には「ミサ(祭儀)」を行います。



4　聖ラファエル校との交流について

①オーストラリアへの白石市中学生派遣事業

市内中学校２年生数名を、友好親善訪問団としてオーストラリアへ派遣します。

②聖ラファエル校受入事業

２年に１回、聖ラファエル校の生徒・引率を白石市で受け入れます。

5　オーストラリアへの白石市中学生派遣事業について

（１）事業趣旨

次世代を担う青少年をオーストラリアに派遣し、ホームビジット（家庭訪問）や学校体験を通して生きた英語に触れさせることで、英語学習の意欲向上を図る。

また、異文化に接し、互いの文化・価値観・生活様式などを理解・尊重することで、グローバルな視点で世界を眺め、自国の良さを発見し、多様なものの見方や考え方、友情を育む。

（２）派遣先

オーストラリア・ニューサウスウェールズ州（シドニー、カウラ、キャンベラ）

（３）派遣期間（年度により変更の可能性あり）

７月下旬から８月上旬の１０日間

（４）訪問団の構成（年度により変更の可能性あり）

生徒　８名（市内中学２年生）、引率　２名（団長（市職員）１名、副団長（教員）１名）

（５）宿泊（年度により変更の可能性あり）

ホテル　８泊（シドニー、カウラ、キャンベラ、東京）、機内　１泊

★ホストファミリーの割り当てについて

派遣生徒とホストファミリーの割り当ては、聖ラファエル校側へ一任しています。基本的には、同性同士の組み合わせになりますが、応募状況やホストファミリーの状況によりそうならない場合があります。

また、１つのホストファミリーに２名の生徒がお世話になる場合もあります。

（６）派遣内容

①ホームビジット （家庭訪問）	聖ラファエル校に通う生徒の自宅を訪問します。実際にオーストラリアの生活や食事、文化などに触れながらホストファミリーと交流します。
②聖ラファエル校での学校体験	ホストシスター/ブラザーと一緒に授業を受けたり、校外学習に行ったりします。
③聖ラファエル校での出し物披露	聖ラファエル校の生徒に向けて、出し物を披露します。出し物の内容は事前研修会で話し合い、決定します（令和６年度は、全体発表が「ダンス」、班ごとの発表が「書道・折り紙・こまとけん玉」でした）。
④シドニー、カウラ、キャンベラ市内見学	市内の建物や自然に触れ、オーストラリアの歴史や文化について学びます。

（７）事前研修

訪問団員決定後、計５回の事前研修会を行います。研修会では、オーストラリア滞在中の様々なシーンを想定した「語学演習」や聖ラファエル校での出し物の準備・練習を行います。

研修会は英語専科の教員をはじめ、白石市に勤務しているALTにご協力いただきます。

	内容（予定）
第１回	◆英会話（テーマ：家庭訪問） ◆各種あいさつの役割分担 ◆聖ラファエル校での出し物について （全体発表/班ごとの発表の内容決定）
第２回	◆英会話（テーマ：学校体験） ◆出し物（練習、準備物の確認）
第３回	◆英会話（テーマ：私のまち） ◆出し物（練習）
第４回	◆英会話（テーマ：もしも・・・） ◆出し物（練習）
第５回	◆出し物（総リハーサル）

（８）事後研修

この事業で体験したことや成果、今後の目標などについて報告します。

時期	内容
８月下旬	解団式（報告会含む）
１０月下旬	事後研修会
１１月下旬	青少年健全育成市民のつどい

（９）費用負担

①参加者負担金	【150,000円/人】　オーストラリアへの渡航費や活動費として、１人当たり約50万円～60万円程度の費用がかかります。そのうちの一部を負担金として納めていただき、差額は市からの補助金でまかなわれます。
②パスポート申請手数料 ※パスポート未取得の方	【11,000円～16,000円　※令和７年３月現在】
③海外旅行傷害保険 （加入必須）	【約10,000円～】　派遣期間の病気や怪我、盗難などのトラブルに対応した保険にご加入いただきます。詳細は、保護者説明会にてお伝えいたします。
④ETAS申請手数料	【1,700円～2,500円　※要クレジットカード】　ETAS(Electronic Travel Authority System)とは、オーストラリアが採用している電子入国許可のことで、オーストラリア出発１ヶ月前までに、各自必ず申請していただきます。

（10）医薬品（処方薬・市販薬）の持ち込み

オーストラリアへの入国者には、旅行者向けの例外措置が適用されています。これにより、大半の医薬品、医療器具の場合、ご自身の使用目的ということで手荷物持ち込みが認められています（スーツケースには入れないこと）。

①医師の処方薬	医師からの処方証明書(英文)が必要となります。該当する方へは、個別に対応します。
②市販薬	事務局から配布される市販薬リストを提出していただきます。英訳は事務局で行います。市販薬は、薬の成分が判るよう、パッケージやラベルは剥がさず、開封して小分けの袋などには移し替えないようにします。

(11)その他

①服装	冬服(制服、ジャージ、私服) ※私服については、人目をひくような派手な服装は禁止です。
②ペット･動物について	カウラでは、多くの家庭がペットまたは動物を飼っています。動物が苦手なお子様や動物アレルギーのあるお子様は、家庭を訪問することが難しいと判断する場合があります。 ※ペット･動物の例：犬、猫、羊、鶏、牛、アルパカ、エミュー、アヒル、うさぎなど
③食物アレルギー	食べ物のアレルギーのある方は、必ず、自己紹介書に記載してください。また、ホストファミリーにも必ず口頭で伝えてください。

(12)派遣決定後にお願いすること

内容	生徒	保護者
①派遣生徒保護者説明会、結団式、出発式、解団式などへの参加	●	●
②事前研修への参加	●	
③各種あいさつ ※結団式や聖ラファエル校での出し物披露時など、様々な場面であいさつをしていただきます。	●	
④事前研修外での準備や練習など	●	
⑤ホストファミリーへのお土産の準備 ※高価なものではなく、100均などで買える安価なもので構いません(高価なものはホストファミリーが気を遣ってしまうため、お勧めしません)。	●	●
⑥事業報告書の作成(感想文など)	●	
⑦事後研修への参加	●	●

(13)派遣生徒の心得

①この派遣事業は、学習の場として設けられている「研修」です。 観光旅行ではありません。代表として責任のある行動を取りましょう。
②市の代表として、何事にも積極的に取り組みましょう。
③ホストファミリーは善意で白石の生徒を受け入れています。感謝の気持ちを伝えましょう。
④白石の生徒が英語をうまく話せないことを理解しています。「伝えようとする気持ち」を意識してください。
⑤言葉が通じないという状況を経験することも大事です。

6　令和６年度（2024 年度）派遣事業に参加した生徒の感想

１．派遣事業に応募したきっかけ、理由を教えてください。

◆自分を成長させ、他の国の文化や歴史を学びたいと思ったから。
◆日本とオーストラリアの違いを知りたいと思ったから。
◆自分が今どれくらい英語を話せるか試してみたかった。
◆前年度、私の姉の友達が受入事業に参加していて、その時にオーストラリアの生徒と関わる機会があったが、あまり英語が話せなかったため、自分の英語力を磨いてもう一度チャレンジしたいと思ったから。
◆先輩たちの文化祭の発表がきっかけで、オーストラリアに興味を持ったから。

２．ホームステイ期間中、一番心に残ったことや今後大切にしていきたいと感じたことなどを教えてください。

◆ホームステイ期間中は不安なことだらけだった。そんな私にいつも優しく教えてくれたりしたホストファミリーの心の広さに救われたので、私も心を広く持ちたいと思う。
◆自分の意見をしっかり言うこと。目が合ったら挨拶することを学んだ。
◆ホストブラザーたちと家で卓球をして遊んだこと。出会った人に都度丁寧に感謝を伝えることを大切にしていきたいと思った。
◆景色がとても綺麗なこと。日本とあまりにも違う景色に圧倒された。また、今後はもっと自由に生きること、思ったことはちゃんと言うこと。
◆挨拶は世界共通。
◆ホストファミリーが気を遣ってくれたり、また会おうと言ってくれたり、一つ一つ話した言葉が心に残っている。一期一会というか、感謝を大切にしたい。

３．ホームステイ期間中、困ったことや苦労したことがあれば教えてください。

◆英語が聞き取れなかった。
◆ドライヤーがなかったので大変だった。事前に確認しておいた方がいいと思った。
◆ご飯の量や好き嫌いをはっきりと伝える必要があること。肉などが特に多く出てくる。魚は出なかった。
◆シャワーの温度調節が難しかった。
◆寒さ対策。中に着こんだほうがいい。手袋、マフラー、ホッカイロを持って行くといい。
あとは、すごく乾燥するのでリップクリームは必須。

４．ホームステイ期間中、英会話で困ったことや苦労したことがあれば教えてください。

◆ブリティッシュ英語を活用して練習しても良いと思う。
◆ジェスチャーで言いたいことは伝わるが、初めて聞く英語のフレーズが聞き取れなくて難しかった。
◆一問一答になりがちで、リアクションがなかなか取れなかった。
◆あいづちの英語がもっと事前研修用のテキストの模擬会話にあるといいと思った。

５．未来の訪問団員になる方へアドバイスがあれば教えてください。

◆オーストラリアについて調べるのはもちろんですが、相手は日本や白石のことについて興味があるので、しっかり説明できるようにしておいた方がいいと思う。
◆自分の考えをしっかり相手に伝えること、積極的にコミュニケーションを取ることができれば現地でも心から楽しむことができると思う。
◆最初は緊張すると思うけど、だんだん楽しくなるし馴染めて来るのでそこまで身構えなくても大丈夫。英語の勉強は多少はしておいた方が、より楽しく過ごすために役立つはず。
◆ここで出会った仲間はとても頼りになるものなので、緊張せず話してみてください。
◆英語が喋れるかどうかはさておき、コミュニケーションをとりたいという気持ちが一番重要。
◆思っている不安は起こらない。ホストファミリーと話せるだけ話す。いろんな人にいっぱい話しかけるべき。お土産は考えて買うといい。
◆荷物の確認は、少なくても３回必要。
◆やりたいことは、やりたい！と自己主張しないと、たくさんチャンスを逃してしまう。疑問に思ったことはそのままにせず、聞いたり調べたりする。学んだことは忘れないようにメモする。「ごめんなさい、ありがとう、笑顔、リアクション」、それだけは忘れずに。

６．この派遣事業全体を通しての感想や意見などがあれば教えてください。

◆改めて、英語を好きになるきかっけを作っていただいたと感じている。
◆今回の事業では将来のために役立つことしかないくらい学びが多かった。だから、私も今回学べたことを活かしていき、もっとこの事業を体験してオーストラリアを好きになる人が増えたらいいなと思った。
◆オーストラリアの文化や歴史、日本と異なったことなどを学んで、とても貴重な体験ができた。この経験を活かして自分の夢に一歩近づけるように頑張る。
◆とても楽しい経験でもあり、勉強になった１０日間だった。海外というと中学生では不安になると思ったが、他のメンバーが優しく、すぐ仲良くなれたので不安が感じにくく、とても安心できた。

7　聖ラファエル校受入事業について

（１）事業趣旨
　聖ラファエル校から生徒及び引率が来白することから、学校体験やホームビジットなどの交流を通して、中学生が新しい価値観に遭遇し、国際社会への理解を深めること。
　さらに、海外への興味・関心を喚起し、自国と他国の文化や価値観などを比較し相対的に捉える視点や、異なる歴史背景を持つ人たちとの協調性と友情を育むこと。

（２）来白予定人数
　生徒　１０名～１２名程度　　引率　２～３名程度

（３）滞在期間
　６日間(土日を含む)
　※聖ラファエル校は、２週間の春休み期間(９月下旬から１０月上旬)を利用して来日。

（４）滞在形式
　市内中学校へ通う生徒宅へ家庭訪問（ホームビジット）
　※白石市中学生派遣事業に参加したご家庭には、原則として、聖ラファエル校の生徒を受け入れていただくようお願いします。

（５）交流内容

①学校体験	滞在先のホテルから登校します。お世話役の生徒のみなさんと一緒に学校生活を送ります。授業が終わったら一緒に下校します。
②ホームビジット （家庭での受入れ）	聖ラファエル校は、日本の普段の家庭生活を体験することを目的に来白します。特別なおもてなしを行う必要はなく、普段の食事や生活習慣を一緒に過ごすことが重要となります。

(6)食事について

ホストファミリー説明会(9月中旬予定)の際に、受入生徒の好き(嫌い)な食べ物やアレルギーなどの基本情報をお渡しします。生徒によっては、食べられないもの(苦手なもの)が多い場合や普段から間食としておやつをたくさん食べている場合があります。

可能な限り事前に情報共有しますが、受入生徒との日常の会話の中で「食べたいもの」「食べられるもの」を確認しながら、ご準備ください。

(7)金銭の負担について

基本的には、滞在中の食事や集合場所までの送迎にかかる費用、入場料などを負担していただきます。一方で、受入生徒の個人的な経費(本人がお土産として買う代金など)は、受入生徒本人の負担となります。

(8)聖ラファエル校からお願いされていること

聖ラファエル校は、日本の普段の家庭・学校生活を学ぶことを目的に白石を訪問します。特別なおもてなしを行う必要はなく、普段の食事や生活習慣を通して日本の家庭を体験させてほしいとお願いされています。
また、白石を訪問する前(または後)には、日本各地の観光名所(東京・京都・広島など)を回ります。白石では、観光に捉われず家族との交流を深めることをお願いされています。

(9)ホストファミリーの皆さまにお願いすること

内容	生徒	保護者
①ホストファミリー説明会への参加	●	●
②顔合わせ会への参加(予定)	●	●
③滞在中の食事の提供		●
④夕食後の滞在先のホテルまでの送迎		●
⑤学校体験日の下校	●	
⑥学校体験中のお世話役	●	
⑦放課後や休日の対応	●	●
⑧お別れ日のお見送り	●	▲※

※▲は、可能な限りのご対応をお願いしています。
※①の説明会には、令和6年度にホストファミリーを経験したご家族に出席してもらう予定です。

（10）その他

ホストシスター/ブラザーは、家庭訪問中や学校体験など日常生活の中でのお世話役となります。ご家族の協力が必要ですが、生徒本人がお世話役を希望する気持ちが一番重要となります。

（11）心得

①受入生徒は「お客様」ではありません。家族の一員としてお迎えしましょう。
②家庭訪問は、国際理解を深めるために「善意」「協力」「感謝」の心によって行われるボランティア活動です。 過度なおもてなしや金銭面で負担とならないように心がけましょう。
③堪能な英語力(英会話力)は必要ありません。 翻訳アプリやジェスチャーを積極的に使い、楽しく交流することを大切にしましょう。
④家庭内のルールをしっかりと説明し、お互いが気持ちよく生活できるように心がけましょう。 生活習慣は「違って当たり前」と考え、遠慮せずにルールや気持ちを伝えましょう。伝えることで受入生徒が日本文化や習慣を学ぶチャンスとなります。
⑤家族みんなで協力しましょう。

8 令和６年度（2024 年度）受入事業に参加した保護者の感想

１．初日（平日）の過ごし方を具体的に教えてください。

◆自宅内を案内し、自由に使ってもらう部屋にスーツケースを置いてからお土産を頂いた。ウノや紙風船をして遊んだ。
◆自宅のトイレやバス、洗濯機、洗面所の使い方を説明した後、家族でファミレスで食事をした。
◆ヨークベニマルで、食べてみたいものや興味のあるお菓子などを買って、家でお互いに緊張しながら会話をした。
◆ラム肉を一緒に食べた。家の中の案内や互いの平日のタイムテーブルを確認した。
◆荷物の整理をした。夕食は本人の希望でお寿司にした。その後は、マリオカートをしてお風呂に入り、21時に就寝。
◆まず、学校体験をする中学校へ向かい、外観をみてもらった。家で先に帰宅した夫と娘たちがクラッカーでお迎えし、家の中を案内。冷蔵庫の中もマスキングテープに英語で説明書きをしておいたので、「好きなものを食べていいからね」と話した。家族全員にそれぞれお土産を頂き、お土産の説明をしてくれたり、お土産のカレンダーで家族の誕生日を教え合ったりした。受け入れた生徒のお母様が誕生日とのことで、生徒さんが入浴中にこっそり「ハッピーバースデートゥユー」を家族で歌い、録画してお母様に送信した。
◆受け入れした生徒が好きなアニメを一緒に観た。夜ご飯は手巻き寿司を用意した。
◆夜は手巻き寿司パーティでお刺身にトライ。焼肉も巻いた。おしゃべり、入浴（初の個人浴槽！）の間に片付け。リビングでお手紙とプレゼントをもらった。子どもたちはテレビゲーム後、就寝。

２．平日の過ごし方を教えてください。①

◆息子の児童クラブへ一緒にお迎えに行ってもらい、ホットプレートでお好み焼きと焼きそばを作るのを手伝ってもらった。お好み焼きのひっくり返しで盛り上がった。
◆前日の会話で、チャレンジしたい食べ物はラーメンと聞いたので幸楽苑に行った。お箸の使い方が上手で、ラーメンは口に合ったらしく完食。帰宅後もみんなと会話をし、お互いに質問が多かったと思う。
◆マックで夕食。学校での出来事を聞かせてもらった。帰りに、生協でお菓子を買い、帰宅後、子どもたちはお菓子を食べながらジェンガを楽しんでいた。
◆夕方、学校近くで待ち合わせをして、スーパーでお買い物。夕食に食べたいものや翌日の朝食のパンを選んだ。夜はバレー部の夜練に参加して、ドッヂボールやバレーボールをした。
◆朝は早く起きたので家の周りを散歩。目に入った気になるものの質問を受けて会話をした。初めての日本の中学校生活を楽しみにしている様子だった。この日の学校では、体育のバスケットで大活躍だったようだ。帰宅後、スーパーで買い物をし、お寿司屋さんで夕食。子どもたちがお寿司のネタを英語で説明していた。帰宅後、花火をした。息子が宿題をしている間は私が会話の相手をした。オーストラリアの生徒さんは私に、スマホの画像や動画を見せて説明してくれた。
◆たこ焼きパーティをした。
◆公園でフリスビーやボール遊びをした。夜ご飯は、娘と一緒にカレーを作ってくれた。

３．平日の過ごし方を教えてください。②

◆受け入れした生徒のご家族とテレビ電話をした。
◆受け入れした生徒の希望で、前年度受け入れてくれたホストファミリーのご家族と一緒に夕食をとった。
※この生徒は昨年度に続き今回が２度目の来白。
◆会話でマックよりピザが好きということでピザを食べた。明日の予定を話しながら、緊張も少しずつなくなり、自分のプライベートの時間、一人になって家族に電話したりしていた。
◆本人の希望でパイレーツオブカリビアンの映画を鑑賞。音声を英語にしたので喜んでいた。
◆この日は部活動へは行かず、名取のショッピングモールに行き、オーストラリアへのお土産を購入し、ゲームセンターで遊んだ。UFO キャッチャーがお気に入りだった。夕食はフードコートでケンタッキー・フライドチキンを食べた。みんなでお揃いのブレスレットを作るため、材料を買い、ブレスレットを作った。
◆学校体験最終日、クラスメイトにカバンにサインしてもらったと帰ってきた。夕食は焼肉。オーストラリア牛と仙台牛を食べ比べたり、いろんなタレにトライしたり（自分の家では塩がほとんどだそう）。食事の際に末っ子の娘が眠ってしまうと優しく手を直してくれ、「静かにね…」というジェスチャーをしてくれ、家族の一員のようだった。
◆ホームシックになったようで、部屋でゆっくり休んでもらった。ずっと食事もあまり食べてなかったので、夜はみんなでココスへ行き、好きなものを選んで食べてもらった。
◆帰宅後は、少しおやつとリラックスタイムを作った。17 時に手作りの牛丼。私（ママ）は受け入れた女生徒とスイミング、ジャグジーとサウナを満喫。21 時半に帰宅、シャワー、就寝。

４．休日、他のホストファミリーと一緒に過ごした感想を教えてください。

◆座禅体験は、日本人でもなかなか体験できるものではないので良かったと思う。焼肉では、子どもたち同士でとても楽しそうに交流していて笑顔も見られ、リラックスして過ごせていた。親にとっても過ごし方の情報交換ができ、息抜きになり、良い時間を過ごせた。
◆オーストラリアの生徒も一緒に過ごしたこと、息子も日本人の友達がいたこともあり、リラックスムードで過ごせていた。英語と日本語が飛び交っていた。娘もオーストラリアの女子生徒と仲良くなり、家族みんなが満足して帰ることができた。
◆この日は座禅体験と焼肉で、久しぶりに全員と会って集まることができて、お互いにホッとできる時間だった。毎日の食事に心配が多かったので、夕食の心配がないのも安心だった。
◆焼肉は有志の企画だったが声を掛けたところ全家庭が参加してくれ、皆さんの団結力を感じた。
◆食べ放題のルールやマナーを教えることは必須。

５．休日の過ごし方を教えてください。

◆娘の発表会で塩釜へ。リハーサルや本番舞台を見学した。帰りに、アウトレットモールでお土産を購入。夕食は希望があったので寿司屋へ行った。
◆ちょっと疲れている様子だった。いつもよりのんびりの朝。この日は家族みんなで過ごせる最後の日で、家族へのお土産を買いたいとのことで福島のイオンへ行った。
◆午前中はうみの杜水族館へ。帰り道にまたゲームセンターで遊びたいとリクエストがあったので、名取のショッピングモールへ。夕食はお寿司を作ってみたいとのことで、かっぱ巻きなどを作った。夜は荷作りをして過ごした。
◆家族で松島や水族館へ行った。遊覧船に乗って、手焼きかまぼこ体験や牡蠣カレーパンを堪能。
◆兄弟の高校の文化祭に１０時から１４時まで一緒に参加した。抹茶に挑戦、陶芸ではお皿と入れ物を１時間かけて作成した。昼食は学校でカレーを食べた。和太鼓、吹奏楽、合唱など生徒の発表を鑑賞した。
◆フルーツ狩りと VS パークのどちらがいいかを選んでもらって、イオンモール利府の VS パークへ。受け入れた生徒はうちの子どもたちを上手に誘って巻き込んで、ずっと一緒に楽しく遊んでくれて感動した。帰宅後はみんなでダンス動画を撮ったり、漢字の名前をつけて練習したり、庭で花火をしたりしていた。

6．困ったことや苦労したことがあれば具体的に教えてください。

◆英会話は困ったが、簡単な単語やスマホを使って乗り切った。Wi-Fi に関してはパスワードを伝えて繋ぎ、困った様子はなかった。
◆SIM カードを買いたいと平日に言われたが時間がなく休日になってしまった。早めに手に入っていたらもっと安心して過ごせたかなと感じた。家では部屋で家族や友人と電話などで会話できたと言っていた。
◆食事が苦労した。食べてくれるものがわかるまでは時間がかかった。Wi－Fi で困ったことはなし。スマホでカウラの家族とテレビ電話したり出来た。洗濯物をしてあげたくても出さなかったこと、我が家の英語力が低すぎてコミュニケーションがとれなかったことが心残り。受入のために部屋を準備し、食事などの費用も意外とかかるなと思った。
◆息子と同じアプリを使って英会話や日本語の練習をしていたようで、ふたりで遊んでいた。
◆家のトイレが自動で流れる説明を事前にしてなかったことと、トイレにはたくさんの機能のボタンがあって最初困っていたようだった。その説明を英語でするのが難しかった。
◆アレルギーがないようだったのでホッとしたが、（もともと食が細いのかもしれないが）何を出してもあまり食べなかったので、食事は本当に悩んだ。本人に食べたいものがないか聞くと、何でも大丈夫とは言ってくれたが、登校日の朝食も必要だったので大変だった。家族と離れて過ごすのは初めてだったようで、すぐホームシックになってしまったようだった。食欲がないのもそのせいもあったようだ。
◆受け入れた生徒は、あまりスマホを使用する様子もなく、リビングに置きっぱなしにすることもしばしばあった。風邪気味だったようで、薬が欲しいと言われたが身体に合っているものか少し心配だった。半袖で過ごしていた。
◆Wi-Fi について、我が家の Wi-Fi を使わず自力でやっていたようで、こちらが後から「気付かずごめんね」と声を掛けたが特に問題ないようだった。困ったことは文化の違い。①食事で気に入らないものは遠慮なく残す。②好きな物しか食べない。③ビュッフェレストランで残す。④レストランでは騒々しい。

7．良かったことや思い出に残ったことがあれば教えてください。

◆受け入れた生徒が明るくとても良い子だったので、5 泊 6 日間のすべてが良い思い出。
◆座禅体験で日本文化を体験できた。発表会で、ほかの発表会に出る生徒のみんなが積極的にコミュニケーションを取っていたこと。
◆とても優しい生徒で、祖父と祖母とも積極的に話していた。鬼小十郎まつりでは、甲冑を着てとても嬉しそうだった。
◆焼肉パーティ後、受け入れた生徒から、「このような全員が集まる会を開いてくれてありがとう！」と感謝された。下の娘が仲良しになって英会話教室に通うことになった。英語をたくさん話せるようになって会いに行きたいと言っていたので、親としてとても嬉しく思う。
◆普段体験することができないことが沢山体験できたことが思い出。座禅もだが、白石市民なのに鬼小十郎まつりも行ったことがなく初めて見た。日本や白石について学ぶことが多かった。また、普段ならご飯の後は、家族それぞれの部屋で過ごすが、受け入れ中はみんながリビングに集まり一緒にゲームをしたり、会話を楽しんだりしたことも良かった。
◆日本の文化に触れ、慣れようとする姿が印象的だった。素晴らしいオーストラリアの生徒とそのご家族とのご縁を頂いたと感謝している。
◆受け入れた生徒と娘の二人とも物を作ることが好きで、共通の趣味として、水引を使った小物作りを楽しんでいた。ホームステイ中は部屋に入らないようにしていたが、ホームステイが終わって部屋に入った時に、日本語で感謝のメッセージと一緒にコアラのマスコットが置かれていた。
◆子どもたちにとってネイティブの英語に触れられる機会は本当に貴重だった。オーストラリアとの文化の違いも興味深かった。向こうの家族とビデオ通話をしたが英語が全く理解できず。
◆漢字で名前を考えてあげたら、それをメールでの自分の名前に使ってくれていたこと。娘がいない時は、家族の隣に座り積極的に会話をしようとしていた。食事については、普段通りの食事を出したが、全部の食べ物にトライしていた。向上心のある素晴らしい生徒だった。別れが辛くて、受け入れるまでは想像していなかったが、こんなに別れが辛いと思える関係を築けたことに驚いた。

８．今後の受け入れる家庭に向けて、アドバイスがあれば教えてください。

◆会話は便利なアプリを駆使してたくさんコミュニケーションをとってほしい。我が家では、前もって受け入れる生徒の両親とメールのやりとりができたので良かった。朝食メニューや食べものの好き嫌い、性格について知ることができた。
◆事前に受け入れる生徒のプロフィールで好き嫌いの食べ物やアレルギーの有無などの情報を確認できたし、直接相手とメールのやりとりもできるため、日本に来たらやりたいことや食べたいものなど聞けるので、食事の心配はそれほどしなくても大丈夫だと思う。ただ残食が多いのでびっくりするかも。こちらもフルタイムで仕事をしているので、無理をせず日々の普段の生活を一緒に過ごしてもらっていた。洗濯物は翌日も指定のスポーツシャツを着るとのことで夜干して朝には乾くようにしてあげていた。自由に使える部屋を与えたことで、お互いに自分の時間も持つことができて良かったと思う。
◆就寝時間が早いので、早目の夕食を済ませ、お風呂に入れ、ひとり時間を与える。翻訳アプリの機能を使いコミュニケーションを円滑にとれるようにする。
◆普段の生活に受け入れが入ってくるので、ややせわしい日常にはなるが、ありのままを互いに受け入れるととてもよい時間を過ごせると思う。こちらがやってあげたいこと、本人がやりたいこと、半分くらいずつ取り入れて過ごすと、互いにストレスなく過ごせるのではないかと感じた。
◆受け入れることに抵抗やプレッシャーがあったが、周りの人に助けられて何とかなるものだと感じた。みんなで支え合いながら過ごせ、他のホストファミリーとも仲良くなれた。前年度の受入を断っていたので、「受け入れればよかった…。」と今は思えるほどだ。思春期の子どもと距離ができる時期だが、今回の経験が子どもとの距離を縮めてくれた。受入家族の英会話レッスンがあったらいいと思った。
◆食べ物は、食べられないものは絶対食べない。嗜好品を考慮して食事を用意した方が良い。
◆どの家庭も食事は一番悩むと思う。いつも通りの食事でかまわないと言われたが、すごく考えた。食べられない時のことも考えて、選べるように何種類かおかずがあるといいかも。初めて海外の学生を受け入れて、一人になる時間と空間を作ってあげることは大事だと思った。

９．今回の派遣事業、受入事業全体を通しての感想を教えてください。

◆今回のホストファミリーのみなさんがとても良い人たちばかりで、子どもたちがストレスなく過ごせるようにみんなで集まろう！子どもたちにこんな体験をさせてあげたい！と、率先して計画し動いてくださる方が多く、感謝の気持ちでいっぱいだった。困ったことがあっても事務局の方へ相談し、また、親同士で助け合うことができて本当に助かった。子供だけでなく、家族にとってもとても良い経験になった。本当にありがとうございました。
◆説明会の時、受け入れを経験したホストファミリーの方々のアドバイスがとても参考になった。
◆子どもと趣味が合って、少なからず心は通じ合ったのではと思う。高校生を受け入れるということで心配したが、小学生の妹への配慮や家族への気配りができることに感心した。高校生の親になれたことも貴重な経験となった。様々な面でサポートしてくださった皆さんに感謝して過ごしたいと思う。
◆オーストラリアへ我が子を受け入れてくれ、大切にされたこと、楽しかったことを聞いていたので、同じようにもてなせるか不安しかなかった。今回の受け入れはホームステイで、前年度の経験者に相談しても、宿泊しないホームビジットだったからとわからないと言われて、ますます不安が募るばかりだった。説明会に出席して、他の保護者も同じく不安でいることを知り、みんなでグループ LINE を作成できたことが私にはとても安心材料だった。土曜日の座禅会と焼肉は、全日程を自分の家族だけでなんとかしないといけないというプレッシャーから解放され、ホームステイの受け入れが楽しくなった。また、受け入れる準備で部屋を片付けたりすることも大変だったが、おかげで家の中がきれいになった。５泊６日は長いと思ったが、あっと言う間に時間は過ぎていき、あれもこれも一緒にしたいけど時間が足りないねってなるくらいだった。我が家は娘が３人ですが、もう一人娘ができたような気持ち。受け入れる前は不安が多かったが、今は受け入れて良かったと思う。子どももいろいろな方々と関わることで、他者のことを考えることができ成長を感じた。このような機会を与えていただき感謝したい。

◆あっという間で夢のような５泊６日でした。息子がホームステイさせていただいてからずっと楽しみにしていたので、私も家族も別れることがとても寂しかったです。全員集合した座禅会や焼肉パーティを通して他のメンバーと交流できたこともお互いにとって実のある時間だったと思う。海外のお子様をお預かりするに際し、不明な点、不安な点は事務局の方々が解決してくれた。子どもには「海外にも家族ができた」という意識がある。お互いにそう思って日々を過ごし成長していけたら、また行き来できる日が来るのだろうと思う。
◆前回のホームビジットとは違い、ホームステイならではの大変さや楽しさを体験することができた。前回同様、英語はまだまだなので、今後もっともっと興味を持って頑張ってもらいたい。普段の生活ではなかなか外国に友人を作る機会はないので、私たち家族にとって、とても貴重な経験だった。せっかく知り合えたこのご縁を、今後も長くつないでいけたらと思っている。
◆また受け入れたい！

９　令和６年度（2024 年度）受入事業に参加した生徒の感想

１．学校での休憩時間はどのように過ごしましたか？

◆私のクラスや他のクラスの生徒、他の学年の生徒ともたくさん話をしていた。
◆他の日本人の友達から様々な質問を受けていた。また、聖ラファエル校の生徒同士でも会話を楽しんでいた。
◆クラスメイトが話しかけてくれ、次の授業の説明やクラスの移動、持ち物の確認などをした。
◆日本の学校について説明した。
◆ホールに行ってみんなとたくさん話していた。また、定期的に「トイレ大丈夫？」と聞き、不安にならないよう近くにいた。

２．今回の派遣事業、受入事業全体を通しての感想を教えてください。

◆自分の英語の幅を広げること、他の国の文化を知ることができた。
◆今回が２回目の受け入れだった。オーストラリアの生徒とたくさん話せてとても楽しかった。
◆私が受け入れた生徒は、私のホームステイ先のホストブラザーではなく少し残念だったが、新たな人と関わる楽しさを知ることができた。また、共通の趣味である野球を楽しめたのは、お互い良い思い出になったと思うし、野球部にもいい影響になったと思う。
◆オーストラリアでは自分のことで精一杯だったので、今回の受入事業で知らなかった彼女の一面を知れてよかった。またこのような機会があれば参加したいと思った。
◆日本の文化に触れているときや、オーストラリアは一面の草原だったので、白石城など景色を楽しんでいた。みんなが集まって聖ラファエル校の生徒たちと交流すると、日本での不安な気持ちが安心できているように見えた。
◆日本でオーストラリアの生徒のサポートをすることが楽しかった。英語に対する壁があったが自然と話せるようになった。国籍は違うけど、同じ時間を過ごして楽しいことをすることがとても不思議で、充実した時間になった。そして、受け入れを行ったことで、日本で当たり前だと思っていたことがそうでないと気付き、たくさんのいい刺激をもらえた。また、オーストラリアの自然を愛している姿が見られたときもあり、私も見習いたいと思った。
◆楽しかったことを聞かれたら一つに選べないほど、一つ一つのことが思い出で、姉妹になった気持ちでとても楽しかった。家族は私よりも寂しくなっていたので、また家族で会いたい。
◆文化の違いをたくさん感じたが、受け入れた生徒は日本文化に興味があってよかった。

１０ よくある質問

Q．どんな食事を出せば良いですか？

A．多くの生徒は、２つのタイプに分類できます。

①なんでも挑戦する積極タイプ

日本料理やこれまで食べたことのない料理に対して積極的に挑戦するタイプ

②普段食べているものを好む安定タイプ

普段、オーストラリアで食べているものを好み、初めて食べるものに対して抵抗を持つタイプ

気に入らないもの、嫌いなものは、平気で残すし、食べない。

どちらのタイプでも、まずは食べたいもの・食べられるものを聞いてみることが大切です。

５日間という短期間の家庭訪問ですので、日本料理にこだわらず、食べられるものを提供し、楽しく過ごせる環境づくりをしてみましょう。

Q．部屋が狭いけど大丈夫ですか？

A．全く問題ありません。

日本の家屋は、オーストラリアの家屋と比べると小さいことを理解しています。大切なことは、聖ラファエル校の生徒にとって、「居心地の良い空間であること」ですので、ウェルカムボードを作ったり、家族紹介のイラストや寄せ書きを書いたりと、心温まる雰囲気作りをしてみるのも良いかもしれません。

Q．自由時間はどんな風に過ごしたらいいですか？

A．〈屋内プラン〉

・料理を一緒に作る、家事を手伝ってもらう。
・親戚、友人、地域の方を誘って交流をする。
・ゲーム、トランプ、あっち向いてほいなどで遊ぶ。
・楽器の演奏、折り紙、趣味で楽しむ。
・昼寝をする。（慣れない環境で疲れている生徒も多くいます。）

〈屋外プラン〉

・まつりや地域活動への参加。
・スポーツ（怪我には十分に注意し、負担のない範囲で）
・近場へのお出かけ（神社、お寺、スーパー、武道場など）
・他のホストファミリーと集まってバーベキューなど、一緒に食事や行動をする。

＜全員集合プラン＞

・全員が集まる食事会などを企画・実行する。

Q．英語を話せないけど大丈夫ですか？

A．　聖ラファエル校の生徒や教員は、私たちがうまく英語を話せないことを理解しています。また、気持ちを通わせること（心の交流）の大切さを深く理解しています。

これまでの参加者の多くは、ジェスチャーや知っている単語、翻訳アプリを使うなどして、交流を深めていました。「いただきます」や「ごちそうさまでした」「おはようございます」など、簡単な日本語を教えてあげることもとても良い交流になります。

Q．他のホストファミリーのみなさんが、どんなふうに過ごしているか気になります。

A．　令和６年度のホストファミリーのみなさんは、９月に行った説明会終了後、グループＬＩＮＥを作り、情報共有をしていました。また、土曜日の夕食は、レストランで全員が集まり、お互い集まったことで、オーストラリアと日本の生徒が安心できたようです。ホストファミリーのみなさんにとっても、夕食の手間が省けたり、親同士もお互いの予定を聞き合ったりと、良い時間を過ごせたそうです。